様式第５号別紙１

事　業　実　施　報　告　書

事業名　SDG's フードバンク活動団体に対する中間支援

１　事業の目的

新型コロナウイルス感染症等の影響から、孤独・孤立に陥っている生活困窮者及びひきこもり状態にある者等に対して、SDG's フードバンク活動（子ども食堂支援、戸別訪問・相談、住まいの確保等の支援、就労に向けた支援、食料の支援、地域活動等での就労体験の提供その他生活上の支援）を行うことにより、社会的なつながりを構築・維持する

２　事業内容事業の概要

・事業開始後、時系列で取り組んだ内容を記入してください。
・催し等の日時・会場・回数・対象・参加者数などを具体的に記入してください。
・事業の様子が分かる写真（とその説明）を数枚貼り付けてください。

６月	パンの受け入れ：５日間、11 日総会において事業説明、協力依頼
７月	パンの受入れ：７日間、31 日フードバンク埼玉からアルファ米 300 箱、モチ等（1t）受領
８月	パンの受け入れ：７日間、
９月	パンの受け入れ：６日間、
10 月	パンの受け入れ：６日間、11・26 日フードバンク埼玉からアルファ米 500 箱等受領
11 月	パンの受け入れ：５日間、5 日アルファ米 60 箱を上里へ輸送

12 月	パンの受け入れ：６日間、6 日新座倉庫・20 日埼スタ埼玉県からアルファ米 1000 箱（6.5t）受領
１月	パンの受け入れ：５日間、アルファ米配付活動
２月	パンの受け入れ：６日間、アルファ米配付活動（備蓄品 300 箱を残し配付完了）新規川越市岸町健康ふれあい広場での老人健康体操団体へアルファ米提供

（３）連携・協力機関

フードバンクさいたま市北、あゆみの会、フードバンク日高準備会、加須ふれあいセンター、さいたま市西区、フードバンク埼玉、市民キャビネット災害支援部会、ＮＰＯ法人ドリームスカイユニオン、各地域子ども食堂運営団体、坂戸市マンション自主防災隊 2 か所、生徒ボランティア団体

３　成果及び今後の展開

1）コロナ禍における生活再建支援（支援品を活用した戸別訪問）

小山田織音契機に 2）コミュニティの維持・形成（イベント支援）

3）子ども食堂の継続・開設（支援品提供）

4) 坂戸市マンション自主防災隊（アルファ米活用）、生徒ボランティア団体（学習支援、ホームレス支援、子ども食堂支援）本事業を契機として、新たな連携が始まり、広がりつつある。

5)さいたま市西区との連携が進み本事業中に生活困窮者支援の要請が７件あり、対応した。

以上の活動・支援により、SDG's「誰ひとり取り残すことなく」の精神を団体・支援者と共有した。

（課題）

1）支援者の高齢化により、配送活動中に 2 件の自動車事故が発生した。そのため、レンタカー・タクシーの手段で対応した。活動での自家用車の使用について検討することになった。（廃車１台、自動車保険・車両保険への加入確認で対応）

2）パンの受け入れ数が（ロスを減らす行動でやむを得ないが）減少しており、関係者間の調整が必要である。

3）予算の関係で、配送費補助ができなかった実行団体に対する資金分配問題。

(今後の展開)

１）　パンの受け入れ・配送は戸別訪問の有効なツールであり継続する。３実行団体が定期的に配送・戸別訪問・見守り活動を行っている。１実行団体は不定期。

２）　備蓄品の活用は子ども食堂支援、食料支援の有効なツールであり継続する。埼玉県等との協議では「順に期限が到来するので、放出できる」とのことであり、可能である。また、本事業での口コミで大口の支援要請が続いており対応する。

３）　イベントの開催

コロナ禍で久しく中止してきたが、活動ＰＲ、アルファ米活用ＰＲ、地縁団体との協働促進のため再開する。特に「おいしく食べるアルファ米調理教室」により自治会役員等にアルファ米調理を経験してもらい配付増になった経験を生かす。